

穂高連峰

穂高連峰には、日本にある 3,000 メートル級の 21 山のうちの 8 山が含まれます。穂高連峰は中部山岳国立公園の中核を担っており、この地域で最も象徴的な山、槍ヶ岳を擁しています。槍ヶ岳は、日本語で「槍の山」という意味である名前の通り、先端が鋭い形をしています。また、槍ヶ岳はスイスとイタリアのアルプスにまたがる有名なピラミッド型の山、マッターホルンに似ていることから「日本のマッターホルン」とも呼ばれます。

これらの比較的若い山々の起伏の多い地形は、地殻変動で隆起した花崗岩層が約 1 万年前の氷河の活動で削られた結果です。この氷河の活動は、例えば槍ヶ岳の表層にみられる巨大な U 字型の曲線を残しました。世界的にみるとこれらの山々は特に高くはありませんが、多彩な風景と急勾配の斜面により、穂高連峰はあらゆる登山者がそれぞれのスキルとスタミナを試すためのワクワクする楽しい場所となっています。

中部山岳国立公園のこの地域は、その自然の美しさに加え、日本の登山の発祥の地として歴史的に重要です。18 世紀のこの土地で、ある修行僧が知られる限り初めて槍ヶ岳に登り、また、その半世紀後にイギリス人の登山家が登って「日本アルプス」の名前を生み出しました。その後 1 世紀の間に、スポーツとしての登山は急速なペースで発展し、やがて山の多いこの国の他の地域に広がっていきました。

山小屋と、難度の異なるよく整備された登山コースを通じて、現在、山々は登山者に開かれており、登山者はこの地域の素晴らしい景色、多様な高山動植物、そして険しい登山道への挑戦を体験できるようになりました。